

序

～画像診断の世界へようこそ！～

昨今 CT, MRI といった画像診断の臨床現場での必要性は増す一方である。本書「画像診断に絶対強くなるワンポイントレッスン～病態を見抜き、サインに気づく読影のコツ」は、画像診断をマスターするために必要な最重要ポイントを効率的に身につけていただくための本であり、研修医、若手放射線科医、指導医の3者のカンファレンス形式の会話を楽しみながら読んでいくうちに、自然と画像診断の重要ポイントが身につくように構成されている。

本書の内容は、研修医を読者対象とした『レジデントノート』誌 2010 年 12 月号～2011 年 12 月号に「画像診断ワンポイントレッスン」と題して連載された 13 本の原稿をベースとし、それに画像解剖アトラス的な内容を主体にした新規原稿 (Lesson 1, 7, 11, 12) を 4 本追加して、一冊の書籍としてまとめたものである。その新規原稿の 1 つである Lesson 1 「脳の解剖、そして基準線をマスターする～頭部 CT や MRI を自信を持って読影するために」の最後の方で、指導医が以下のようにコメントしている。「正常解剖をしっかりとマスターしていれば、百戦錬磨の読影エキスパートになる入り口に立っているともいえるね」と…。画像解剖をしっかりとマスターしていれば、いざその画像を目の前にした時の“苦手意識”が消え、読影に自信が持てるようになる。そのような観点より 4 本の新規原稿では“画像解剖のマスター”に重点を置いた内容となっている。従って本書は画像診断の重要ポイントが身につく“読み物”としてだけでなく、様々な画像を眺める際の“画像解剖アトラス”としてもご活用いただけるようになっている。併せて Fitz-Hugh-Curtis 症候群や early CT sign のように、知っておかないと“ヤブ医者”になってしまうような重要な病態やサインについても取り上げた。さらには CT 値とウィンドウ幅、ウィンドウレベルといった基礎的な内容も必要に応じて解説したが、これらの基礎的な内容、そして重要な病態やサイン、解剖

や画像診断のポイントがそれぞれの項目の中に散りばめられている。それらの散りばめられた種々のポイントを拾い上げやすいよう、目次の続きのページに検索インデックスとして「画像解剖のポイント」、「知っておきたいサイン」、「知っておきたい病態」、「画像診断のポイント」の4項目をまとめた。“もう1つの索引”として本書で知識をまとめたり復習するのにご活用いただければ幸いです。

本書の内容は、基本的には当院の新進気鋭の若手放射線科医である堀田，土井下の両先生が執筆してくれた。彼らの初期研修2年間での臨床経験も踏まえた上での視点から執筆した原稿を，扇が側面からアシストする形で時にアイデアを提供し，また時にアドバイスをしながら3人のチームプレイで出来上がったのが本書である。忙しいルーチンワークの合間を縫って執筆を頑張ってくれた両先生にはこの場を借りてあらためて感謝するとともに，本書の企画段階から発刊まで誠心誠意取り組んでいただいた羊土社編集部の保坂早苗氏，杉田真以子氏はじめ多くの編集部スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

本書が画像診断に興味を持っていただく足掛かりの本として，またすでに画像診断に興味をお持ちの先生方はその知識や造詣を深める本として，また一度読破していただいた後は，それぞれの臨床現場にて画像解剖アトラスや病態・サインを参照する座右の書として，研修医のみならず多くの先生方にご活用いただけることを願っております。

2012年3月吉日

日本赤十字社医療センター 放射線科
扇 和之